

テーマ【凛々子パーティーに招待をしよう】

千葉県 千葉市立おゆみ野南小学校

垣地 広之 先生

5年生 38名 総合的な学習の時間

■ 実践のねらい：

- 地域との交流を通して、自ら考え、役割を果たし、自分の言葉で表現する力をつける。

■ 取り組みの概要と流れ：

- かねてから近隣保育園との交流活動を考えていた。5年生と年長児は、翌年も最上級生と新1年生として、2年間、関わりを持てるため、5年生で取り組むことにした。

- 保育園の畑を借りて、園児と一緒に栽培すると同時に、学校でも一人一鉢ずつ栽培した。生育期の芽かきや支柱立ての作業は、初めに自身の鉢で体験した後、保育園の畑でも年長児に指導しながら作業を行なった。



園児に支柱立ての仕方を教える

- 収穫期には、5年生だけでトマトソースを作ってギョーザピザの試作を行なった。その後、年長児を「りりこパーティー」に招待して、一緒に調理を行なった。



園児に作り方を教えながら、一緒に調理



- 秋に行なわれた学校行事「おゆみ野フェスティバル」では、トマトに関する調べ学習の成果をグループ毎に模造紙や模型、ペープサートなど、さまざまな趣向を凝らしてまとめ、招待した年長児や地域の方たちに向けて発表した。



▲テレビ中継方式で生産者の工夫や苦勞を伝える



▲模型を使ってトマトジュースの製造工程を説明

【児童の作文より（抜粋）】

- ・ 前に自分達でやったやり方と同じにリリコソースを作りました。そして、ぎょうぎの皮の上へのせ、焼いてあげて、食べさせてあげました。心の中で私は「おいしい！」って言うってくれるか、すこしドキドキしていました。でも保育園の子たちは笑顔で「おいしい〜！！」とってくれました。なので私は、とってもとってもうれしかったです。
- ・ くわしく調べたことをうまく発表に取り入れ、ペープサートや大きな紙に書いてはりながら説明したり、TVをしている感じにして生中けいをしたり、トマトが商品化されるまでを実際の工場のように表現したりしました。（中略）見に来てくれた一人の人が「栄養についてよくわかった」と言っていました。なえからリリコを育て、料理も作り、そして、フェスティバルで発表したことで、見に来てくれた人にもトマトの栄養について知ってもらえて良かったです。

■ 取り組みによって得られた成果：

- トマトは食べることができるので、子どもたちが栽培や観察に意欲旺盛に取り組んだ。また、調理の楽しさを知ったことで、家庭でもトマトソース作りをする児童が多く見られた。
- 年長児に「教える」ことも学習としたことで、相手に伝える発表の仕方や、餃子ピザ作りなどでも決め細やかな心配りが見られた。
- 夏休み前に鉢を持ち帰ったことや、フェスティバルで成果発表を行なったことで、保護者にも学校の様子を理解いただくことができた。

■ モグモからのメッセージ：



5年生と年長児の交流という来年度を見通した他学年交流によって、5年生は最高学年への、年長児は小学校への期待がグッと高まったんじゃないかな。

定植から学習発表会まで、5年生は徹底して「相手の立場になって行動する」活動を繰り返したことで、相手が喜ぶ姿や期待されることなどを誇らしく思う気持ちが育っていったんだね。活動後の感想文からは、頼もしい新・6年生の姿が見えてきたよ。聞く人のことを考えて作られたフェスティバルの作品は、それぞれにいろんな工夫がされていて、驚いたよ〜！